



営農NEWS



促成キュウリ栽培で、うどんこ病、べと病、褐斑病などの発生に注意し、防除を徹底しましょう

施設のキュウリ促成栽培では、厳寒期に入り、施設内の環境制御や肥培管理に苦勞されていることと思います。この時期、施設内が乾燥気味で経過すると、うどんこ病が発生しやすくなり、また、施設内が多湿で経過すると、べと病や褐斑病が発生しやすくなります。これらは、葉裏や枝葉の込み合っている場所から発生しやすく、見逃していると、急激な進展のみられることがあります。

このため、今後とも適正な整枝、剪定作業や肥培管理を行うとともに、晴天の日をねらって予防散布に努め、更に、病害の早期発見と発生初期的確な防除を徹底することが重要になります。

<防除のポイント>

- 1 施設内の過湿を防ぐため、日中は除湿機の稼働、暖房機の送風などに努め、適正な温湿度管理を行ってください。
- 2 株間の通風をよくする整枝や剪定、樹勢維持のための適切な灌水や追肥など、適正な栽培管理に努めてください。
- 3 発病は、下葉や葉の込み合っている場所の裏葉などを丁寧に観察して、早期発見に努めます。
- 4 病害の発生を確認したら、早期に薬剤防除を行います。散布は十分な薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧にすることが重要で、夕方までには薬液が乾く時間帯に行ってください。
- 5 既に多発生した場合には、発病葉や茎などをできるだけ除去した後に薬剤散布を行い、病患部に薬液が十分散布できるようにします。
- 6 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一分類（コード）の連続散布は避けてローテーション散布してください。

表 1 キュウリうどんこ病の主な防除薬剤（平成 30 年 2 月 1 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害	分類
ダコニール 1000※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	べと病、灰色かび病、褐斑病など	M5
ベルコートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 7 回以内	灰色かび病、菌核病、褐斑病など	M7
モレスタン水和剤	2,000~4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	コナジラミ類	M10
サンヨール	500 倍	収穫前日まで / 4 回以内	べと病、アブラムシ類、ハダニ類など	M1
フルピカフロアブル	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	灰色かび病、褐斑病	9
ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内		U13
パンチョTF 顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内		U6 と 3

注 1) 表 1、2、3 の分類欄には、FRAC コードを記載しました（コードが 2 つは混合剤）。同一分類（コード）の連用は避けてください。

注 2) 表 1、2、3 の薬剤名欄※は有効成分 TPN、※※はマンゼブ、※※※はジェットフェンカルブを含みます。総使用回数に注意してください。

表 2 キュウリべと病の主な防除薬剤（平成 30 年 2 月 1 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害	分類
ダコニール 1000※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	うどんこ病、灰色かび病、褐斑病など	M5
プロポーズ 顆粒水和剤 ※	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	うどんこ病、褐斑病、黒星病	40 と M5
ジマンダイセン水和剤 ※※	600~800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病、つる枯病、黒星病など	M3
カーゼート PZ 水和剤 ※※	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内		27 と M3
ゾーベック エニケード	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内		49
ランマンフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内		21

表 3 キュウリ褐斑病の主な防除薬剤（平成 30 年 2 月 1 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害	分類
ジマンダイセン水和剤 ※※	600 倍	収穫前日まで / 3 回以内	べと病、つる枯病、黒星病など	M3
ベルコートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 7 回以内	うどんこ病、灰色かび病、菌核病など	M7
セイビアーフロアブル 20	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	灰色かび病、菌核病	12
ダコニール 1000 ※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	うどんこ病、灰色かび病、べと病など	M5
スミブレンド水和剤 ※※※	1,500~2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	灰色かび病、菌核病	10 と 2
ゲッター水和剤 ※※※	1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内	灰色かび病、菌核病、炭疽病	10 と 1

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA 全農いばらき

生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040